協力隊ケニア OB・OG会 会報

https://www.facebook.com/JOCVKenya/

派遣から５０年　節目の年にケニア OB・OG 会 発足

協力隊ケニアＯＢ・ＯＧ会出席者一同による記念写真。(写真中央　鈴木忠博会長（昭和 42 年３次隊 ナイロビ 建築）

三月十二日、東京新宿区のＪＩＣＡ地球広場で「協力隊ケニアＯＢ・ＯＧ会」の第一回総会と発足を祝う会が開かれました。

総会では初代の会長にＯＢ・ＯＧ会の準備委員会の会長を務めた鈴木忠博氏（昭和四十二年三次隊ナイロビ 建築設計）が選ばれ、派遣開始から五十年を経て、はじめてケニアで活動したすべてのＪＩＣＡボランティア約千五百人以上（派遣中のＪＯＣＶ・短期ボランティア・シニアボランティアを含む）を会員の対象にしたＯＢ・ＯＧ会の設立となりました。

「協力隊ケニアＯＢ・ＯＧ会」という名称にしたとの趣旨が説明されました。会の正式名称は青年海外協力隊のみならずシニアボランティアや短期ボランティアの経験者にも積極的に参加してほしいという方針から、あえて青年海外協力隊という名称を使用せず、「協力隊ケニアＯＢ・ＯＧ会」

会場内ではお互い初対面ではあっても同じウガリを食べた先輩後輩同士はすぐに意気投合し、国際交流イベントでの活動やビジネス、あるいは研究などの場での会員同士の相互協力についての話にも花を咲かせていました。

来賓のひとり、小川登志夫 現青年海外協力隊事務局長からはケニアで行われた派遣五十周年記念行事の報告のほか、かつて協力隊訓練所が置かれていたＪＩＣＡ広尾（東京渋谷区）の用地が、隣接する聖心女子大学の校地として買収されることが決まったとの報告がなされました。事務局長による「同校のご好意により敷地内に残されている物故隊員を祭った慰霊碑は現状のまま保存され、建物の１階部分に関してもＪＩＣＡと業務は住宅省から住宅公団に出向し、建築家として住宅設計と設計監理を担当しました。

また全国に散らばる会員の期待に応えるため、今後は各都道府県のＯＶ組織などを通じて活動を呼び掛ける予定であることも報告されました。総会の後に行われた「祝う会」には青木盛久 元青年海外協力隊事務局長ご夫妻、橋本栄治元ＪＩＣＡケニア所長らも駆けつけ、昭和四十二年三次隊から平成二十四年三次隊までの帰国隊員約四十名が参加して行われました。

青木盛久 元青年海外協力隊事務局長ご夫妻

「協力隊ケニアＯＢ・ＯＧ会」派遣５０周年をきっかけに将来につなぐ活動を

私は設立総会に於いて、初代の会長を拝命いたしました鈴木忠博です。

昭和４２年３次隊（１９６８年）建築設計で派遣され、任地はナイロビで現在では、派遣された隊員はシニア、短期を含めて千五百五十五人、シニア隊員三十九人が派遣されています。

それから五十年が経った

ご来賓、会員の方々

当時のケニアは独立して四年目であり、各省庁のトップはケニア人でしたが、その下には英国人がアシスタントとして在籍し、司法、立法、行政業務の移転をしておりました。そんな中で初期の隊員は活動を開始しておりましたが、電気等の特殊な仕事に関する資格は英国のライセンスがなければならないという条件のもと、資格の習得からのスタートでした。

協力隊ケニアＯＢ・ＯＧ会結成の経緯ですが、ｉ一昨年、五十周年を向えてケニアからの帰国隊員らによる忘年会が企画され参加しました。その席でＯＢ・ＯＧ会立ち上げの提案があり、その後協力隊祭りの時に具体的な話し合いがもたれ、初期の現地事情を知っている私に設権大使であられた青木盛久様、元ＪＩＣＡケニア所長　熊岸健治様、橋本栄治様をお迎えしてのキックオフミーティングが催され、これに参加されたＯＢ・ＯＧの方々が設立実行委員となり、三月十二日の設立を迎えることとなりました。これまで、ケニアの帰国隊員には全体のＯＢ・ＯＧ会はありませんでしたが、これを機に、現地で活動する隊員のサポートと共にケニアとの友好を深め、六十周年、七十周年へと継続して行きたいと考えていますので宜しくお願いします。

ＣＰに計算尺の指導をする隊員時代の鈴木会長

今年度の本会役員

顧問　青木盛久　元　青年海外協力隊事務局長

会　長　S42-3　鈴木　忠博
副会長　S63-1　川田　直輝
　　S62-2　関　友博
会　計　S58-3　松村　文雄
　　H12-2　金田　健一
広　報　H18-3　岡部　繁勝
　　S63-2　菊地　正明
運営委員
　　S41-3　牛山　勝
　　S42-3　井上　三雄
　　S43-1　塩見　日出勝
　　S43-3　松本　公夫
　　S52-3　竹尾　敬三
　　S63-2　倉科　芳朗
　　H18-2　山口　昌彦
　　H21-4　菅井　河奈子
　　H23-2　岸　卓巨
　　H23-4　藤城　友昭

ご寄付、カンパなど
お振り込み口座は
ゆうちょ銀行
店名：八二八支店
店番：８２８
普通　３８２７６２０

立準備委員長の要請があり、一昨年八月一日には在日ケニア大使館よりソロモン・マイナ大使、元青年海外協力隊事務局長で駐ケニア日本国特命全

協力隊ケニアＯＢ・ＯＧ会設立経過報告

２０１５年８月１日　「協力隊ケニア派遣５０周年を祝う会」をＪＩＣＡ市ヶ谷にて開催これを機にケニア OBOG 会全国組織設立の呼びかけを始める。

２０１５年１２月１３日　協力隊ケニアＯＢ・ＯＧに向けて会設立趣旨説明と賛否確認ハガキ送付この時点で把握していた総数１４４３名のうち、９０８名中設立賛同者数４７７名（ハガキやＷｅｂでの返答があった数）。

２０１６年１月　連絡可能なＯＢ・ＯＧの過半数の賛同を得たことで会設立に向け準備開始。

２０１６年２月　協力隊ケニアＯＢ・ＯＧ会設立総会の案内ハガキ送付総会出欠回答数２３９名（内欠席委任数：２０６名）。

２０１６年３月１２日　協力隊ケニアＯＢ・ＯＧ会設立総会開催　総会出席者数３３名。

設立の趣旨と目的

（設立趣旨書より抜粋）

１９６５年（昭和４０年）ＪＩＣＡ協力隊事業が開始された年、アフリカでは唯一の派遣国としてケニアに3名の隊員が派遣されました。それから半世紀、多くの隊員がケニアの地で活動し、それは今も継続しています。その派遣実績は、累計で青年海外協力隊員１５５５人、シニア海外ボランティア３９人となり、派遣人数はマラウイ、フィリピンに次いで第3位となっております。それはつまり、１５００人を超えるケニアからの帰国隊員が日本あるいは国際社会の中で活躍している事になります。　ところが不思議なことに、今までケニアのＯＢ、ＯＧを束ねる組織は設立されませんでした。そこで今回、ケニアＯＢ・ＯＧ会設立となった次第です。会の目的を左記のように定め、今後は帰国したケニアＯＢ、ＯＧの過半数の同意を得て、公式なＯＢ、ＯＧの会を設立※すべく活動を行ってゆきます。

【ケニア OBOG 会の目的】

1. ＯＢ、ＯＧ間の連携、交流を深め、発展させる場を提供する
2. ケニアと日本の友好を深めるための活動を推進する
3. ケニアでの経験を日本および世界に還元する活動を支援する